

## 平成23年度 決算概要

Saga University Financial Report 2012

(単位:百万円)

財務諸表	科目	平成22年度	平成23年度
貸借対照表	資 産	79,567	80,835
	負 債	20,301	20,140
	純資産	59,265	60,694
	損益計算書	費 用	29,474
	(うち経常費用)	(29,447)	(30,712)
	収 益	32,681	33,088
	(うち経常収益)	(32,681)	(33,088)
	目的積立金取崩	0	0
	当期総利益	3,206	2,369
キャッシュ・フロー計算書	業務活動	4,519	5,657
	投資活動	▲3,423	▲4,401
	財務活動	▲1,470	▲1,437
	資金期首残高	8,277	7,903
	資金期末残高	7,903	7,722
国立大学法人等業務実施コスト計算書	実施コスト	10,112	9,775
	決算報告書	収 入	34,582
	支 出	29,776	30,782
	収支差	4,806	2,372

## 財務レポート(指標)の活用

Practical Use of Financial Indicators

平成21年度決算における財務諸表等データに基づき、財務指標の推移及び他の国立大学法人との比較等の分析を行った結果、教育・研究活動への投資が低い傾向でした。

そこで、同比率の改善をはかるべく、平成23年度予算編成においては、人件費の年間シミュレーションを行うことにより予算額と執行見込額との差額を算出し、教育経費及び研究経費の比率向上へ向けた経営戦略的予算編成を実施しました。

主な取り組みは次のとおりです。

- ①学内教育プロジェクトへの支援強化
- ②学生生活への支援強化
- ③学内研究プロジェクトへの支援強化
- ④評価反映特別経費の拡充
- ⑤学長裁量経費の新設
- ⑥特別経費によるプロジェクトに係る学内負担額一部支援見直し

検証の結果、各比率に顕著な改善はみられませんが、この増額投資を活用した主な成果として、次の事業があげられます。

- 給付型奨学金事業  
かささぎ奨学金を新設し、47名の学生に総額で1,410万円を支給しました。
- デジタル表現技術者プログラム  
高度情報化社会へ対応できる人材育成を行い、受講者が県内外のコンテストに関連する各賞を獲得しました。
- スフィンゴ脂質産業の創出  
焼酎かすなど九州地方の未利用農産資源に含まれるスフィンゴ脂質の同定に成功し、マスコミ等で紹介され、その革新性・実用性、社会への貢献が高いとの評価を受けました。

これらのほかにも、教育・研究関連経費への投資を行っており、学会発表や特許申請等へ繋がった事業もあり、今後の発展が期待されます。

なお、本学のこの取り組みは、国立大学法人評価委員会における「平成23年度に係る業務の実施に関する評価結果(業務運営・財務内容等の状況)」において、「注目される事項」として評価されています。

## 地域医療への貢献・質の高い医療提供のために

Saga University Hospital

本院では、より一層地域医療へ貢献し、質の高い医療の提供を確実にしていくために、医学部附属病院の再整備を開始しました。

本計画では、地域の基幹病院としてのスペースの確保、質の高い医療を目指した中央診療機能の拡充および病棟機能の向上、スタッフの教育や研修機能を強化して職員の資質の向上を目指しています。

再整備には多額の事業費が必要となりますので、医学部附属病院では収入の増加や経費の削減のための経営改善、計画的な設備の整備などの取り組みを行っています。



再整備後の医学部附属病院 完成予想図

## 地域社会への貢献・芸術及び文化の振興のために

Saga University Museum

2013年(平成25年)10月に、佐賀大学の「旧佐賀大学」・「佐賀医科大学」統合10周年記念事業として、佐賀大学美術館を設置します。佐賀大学美術館では、佐賀大学の美術・工芸教育の伝統と優れた実績を代表する美術・工芸作品や、佐賀大学の歴史的資料等を展示・公開する予定です。また、教職員・学生・市民の皆さんの教育・研究・学習の成果の発表の場として、展示室やスタジオを利用することもできます。

新たに佐賀大学に、大学ならではの特色ある美術館を設置することで、より多くの市民の方に、気軽に本学を訪問する機会をつくり、オープンキャンパス等の大学を公開する機会にも華を添え、個性的な総合大学の印象を高めることが期待されます。



佐賀大学美術館 完成予想図

## 財務レポート2012詳細版は

Saga University Financial Report 2012

平成23事業年度における活動状況をまとめた「財務レポート2012」の詳細版を本学HPに公開しています。

こちら是非ご覧ください。

<http://www.saga-u.ac.jp/koukai/2012zaimreport.pdf>

国立大学法人 佐賀大学

〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町1番地

TEL 0952-28-8134 (財務課代行)

大学HPアドレス <http://www.saga-u.ac.jp/>

## 国立大学法人佐賀大学

# 財務レポート2012

Saga University financial Report 2012~outline~

いまま 現状 そして 未来  
財務からみた

地域と共に未来に向けて  
発展し続ける大学を目指して

## 全学教育機構の創設

ポートフォリオ学習支援システム

## 地域医療科学

有明海をめぐる環境問題

## 海洋エネルギーの研究開発

シンクロトロン光応用研究

## 地域包括医療の拠点病院として

佐賀県における  
産学官包括連携協定

## 学長からみなさまへ

本学は、これまで大学の三つの使命である教育、研究、社会貢献の全学的・組織的な取り組みの強化とこれを支える大学の経営に対する意識改革の推進の2つの観点から、大学改革を進めてきました。

また、佐賀大学憲章にも謳っていますが、本学は、これまで培ってきた様々な分野にわたる教育研究を礎にし、豊かな自然あふれる風土や諸国との交流を通して育んできた独自の文化や伝統を背景に、地域と共に未来に向けて発展しつづける大学を目指しています。

しかしながら、国立大学法人を取り巻く環境は益々厳しいものとなってきており、国からの予算も年々減額されています。また、平成24年6月に公表された「大学改革実行プラン」においては、社会を変革するエンジンとしての大学の役割が国民に実感できることを目指して大学改革を主体的に実行することが求められています。

このような中、活気に満ちた教育・研究活動、すなわち学生中心の大学にふさわしい洗練された教育の提供と地域・国際社会に開かれた特色ある研究・社会貢献活動を展開していくためには、本学をえてくださる皆様にその活動についてご理解いただくことが不可欠と考えています。

このたび、第2期中期目標期間の2年目となる平成23事業年度決算を踏まえ、佐賀大学をえてくださる様々な皆様に、本学の教育研究活動をできるだけわかっていただけるよう、本レポートを作成いたしました。

本学の財務から「現状」そして、佐賀大学の「未来」につきまして、皆様により深くご理解いただくとともに、さらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

国立大学法人佐賀大学長  
佛淵孝夫

## 大学の三つの使命を着実に遂行していくために

### 学生の成長と未来を支える教育

本学は、「教育先導大学」を標榜し、21世紀における知的基盤社会を支える豊かな教養と専門性を兼ね備えた市民を育成するための教育を目指しています。新たな教養教育システムとして、学士力の質保証のための全学教育機構の設置、効果的な学習をサポートするためのポートフォリオ学習支援システムの活用などの教育改革を推進しています。

### 「明日の社会」を創造する研究

本学は、各分野の基礎的・基盤的研究を礎に、佐賀地域独自の研究や社会からの要請に応える研究を組織的に展開し、世界に発信していくことを目指しています。

地域医療科学、有明海をめぐる環境問題、海洋エネルギーの研究開発、シンクロトロン光応用研究などの重点研究を推進しています。

### 地域・国際社会の発展を支える知的拠点として

本学は、地域社会、国際社会の発展を「知」の発信と「人づくり」で支えていくための知的拠点の形成を目指しています。地域包括医療の拠点としての附属病院における様々な取り組み、産学官包括連携協定に基づく事業の実施などを行っています。

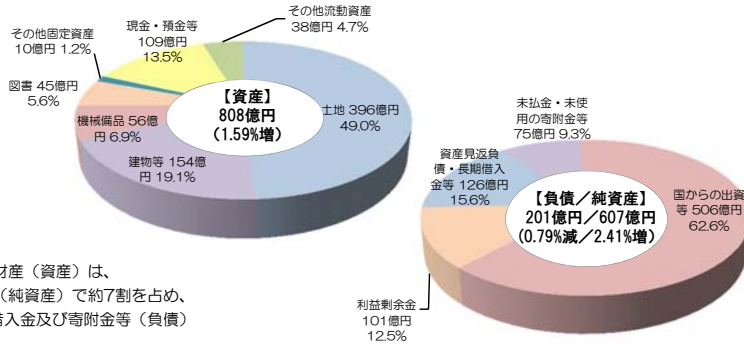
### 魅力ある大学づくりに向けて

本学では、活気に満ちた魅力ある大学づくりを確かなものとするため、全ての構成員の英知を結集するとともに、人的資源を活かした大学の総合力を最大限に発揮できる大学づくりを目指しています。人材の確保と活用、キャンパス環境整備、財政基盤の確立による大学マネジメント力の強化を図っています。



## 平成23年度末の土地や建物の保有、国からの出資や借入金などの財務の状態 ～平成23事業年度 貸借対照表の概略・構成比率（H24.3.31現在）～

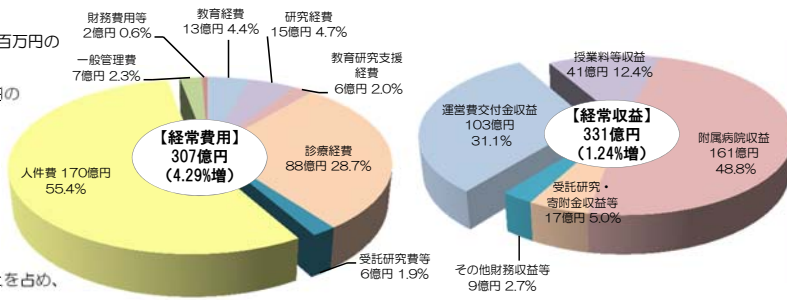
○平成23年度末の  
**資産**は、前年度比で12億68百万円増加の808億35百万円、  
**負債**は、同じく1億60百万円減少の201億40百万円、  
**純資産**は、同じく14億29百万円増加の606億94百万円。



○本学の業務を行うために必要な財産（資産）は、主に国から出資されたものなど（純資産）で約7割を占め、残り3割弱が国からの交付金、借入金及び寄附金等（負債）で構成されています。

## 平成23年度の財務運営状況（使ったお金と入ったお金※） ～平成23事業年度 経常費用・経常収益の概略・構成比率（H23.4.1～H24.3.31）～

○平成23年度における  
**経常費用**は、前年度比12億64百万円増加で307億12百万円、  
**経常収益**は、同じく4億6百万円増加で330億88百万円。



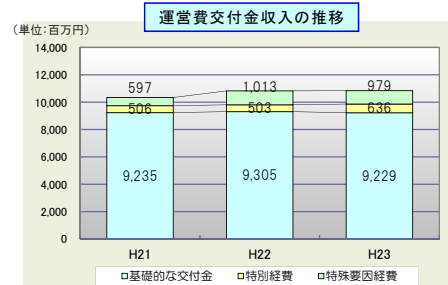
この差額に臨時損益等を加えた  
**当期純利益は前年度比8億36百万円減の23億69百万円。**

○経常費用の構成は、人件費で55%程度と半分以上を占め、次いで診療経費が29%程度、教育研究関連経費が11%程度、一般管理費が2%程度となっています。  
○経常収益の構成は、運営費交付金が31%程度、授業料等の学生納付金や附属病院の各収益で61%程度を占めています。また、受託研究・寄附金等の収益は5%程度となっています。

※国立大学法人では、運営費交付金、授業料等、受託研究・寄附金等は、そのお金を受領しても直ちに収益としては計上されません。一旦負債計上し、次に事項の内容に応じて収益へ振り替えられます。これを収益化するといえます。このため、受け入れた全てが当該年度に収益化されないことがあるため、各年度の「収入額」と「収益化した額」とは、必ずしも一致しません。

## 運営費交付金収入

○平成23年度の交付額は、108億4千万円（運営収入の32.8%程度）。  
○運営費交付金には、右表に区分するもののほかに附属病院運営費交付金がありますが、本学は、平成17年度の経営改善により、交付を受けていません。  
○効率化係数等の削減措置など、国立大学法人を取り巻く環境は厳しく、一層の経営努力が求められています。  
※右図は、基礎的な運営費交付金と競争的に獲得する特別経費や退職手当などの特殊要因経費に係る交付金の年次推移を示しています。



## 出資・承継などによる純資産

承継(法人化)時の資本金は、473億6千万円、平成23年度末の資本金は473億4千万円  
※平成21年度に道路拡張に伴う土地売却により減資しました。

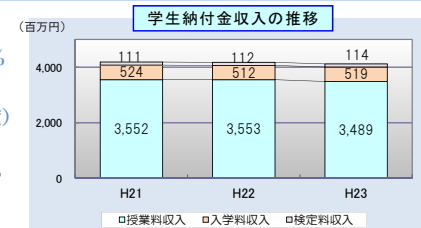
## 施設費等

施設整備費補助金等の交付は法人化後総額で52.3億円  
病院設備に関する長期借入は法人化後総額で17億円  
※平成23年度は、病院再整備などに約1億3千万円が交付されました。

国からの主な財政投入

## 学生納付金収入

○学生納付金は、右図のとおり毎年約40億円（運営収入の12%～15%程度）で推移。  
○平成23年度は右図のとおり約41億円（運営収入の12.5%程度）  
※学生納付金の額は「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」による「標準額」を踏まえ、一定の範囲内で各法人が、その額を決定することとなっています。第1期では、平成17年度に授業料の標準額が改定されています。（学部・大学院の授業料単価（年額）520,800円→535,800円）



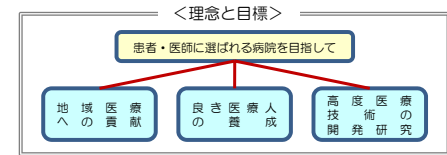
学生納付金や学生支援事業

## 学生支援事業

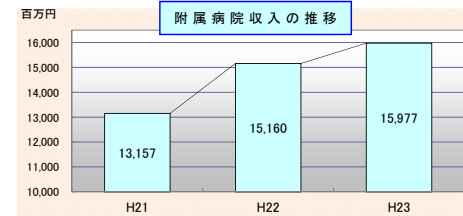
平成23年度の授業料減免の対象者は延べ1,898人で、減免額は2億7千万円。  
※平成23年度は、昨今の経済情勢の悪化に鑑み、緊急経済対策として、追加減免を実施しました（上記減免額の内数になっています）。  
平成23年度には、給付型奨学金等事業を新設。47名の学生に1,410万円を支給。  
・成績優秀者に対して経済支援を行うと共に学生の学習意欲を高めることを目的として、給付型のかさざき奨学金事業を開始しました。  
・キャンパス・ソーシャルワーカー制度を導入し、アウトリーチによる学生支援を実施しました。

患者・医師に選ばれる病院を目指して

○附属病院収入は、毎年130億円以上の収入（運営収入の44～48%程度）  
○平成23年度は、右下図のとおり159億7千万円（運営収入の約48.3%）  
○平成23年度は、延べ41万人の患者さんに利用いただいています。

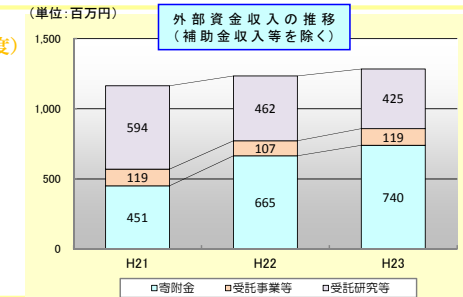


附属病院では、看護体制の整備やコ・メディカル職員等の柔軟な配置、設備等の充実、また、看護師増強に必要な財源を確保するためにも、医療材料購入の合理化・効率化や病院管理会計を導入し、診療科ごとの経営状況の把握に努めるなどの取り組みを行ってきています。  
今後も、本院理念であります「患者・医師に選ばれる病院を目指して」、3つの目標を果たしていくためにも、収支両面から経営の安定化と改善に向けて、様々な経営努力に努めてまいります。



外部資金収入

○平成23年度の収入額は12億8千万円（運営収入の3.9%程度）  
○産学・地域連携機構（H24.4～）や競争的資金対策室の活動を中心として、創造性豊かな研究の社会への還元と産業界の発展に貢献できるよう努めていきます。



外部資金には、企業の皆さまなどからの受託研究や寄附金、文部科学省を含む各府省庁に申請・交付される受託事業などがあります。毎年、基礎的な運営費交付金が減少していく中、教育・研究の活性化と経営の安定化のためには、このような資金がますます重要なものとなってきています。

## 国民のみなさまに負担いただいているコスト

○平成23年度の業務実施コストは、98億円。  
○平成21年度と比較すると、27億円の減少。  
○国民のみなさま1人当たりのコストは、約76円/年  
大学の業務活動の中で、国民のみなさまにどれだけコスト負担いただいているかを明らかにするために「業務実施コスト計算書」を作成しています。これは、損益計算書を基礎として、国民のみなさまの負担とならない本学の自己収入などを控除し、国から出資された建物や法人化以降、施設整備費補助金で購入・取得した建物などの減価償却費などを加算して算定しているものです。  
平成23年度の場合、以下のとおりです。  
業務コスト98億円 ÷ 推計人口1億2,779万人※ ≈ 約76円  
※国民総人口(H23.10.1現在：総務省統計局)による

